

# けやきっ子

四日市市立羽津北小学校

令和4年9月12日発行 No.7

文責：校長 山中 茂生



学校 HP は  
こちら



## 全国学力・学習状況調査～結果と分析～

今年度は、4月19日（火）に6年生が「全国学力・学習状況調査」（国語・算数・理科）を実施し、子どもたち一人ひとりの学力の定着状況の確認とともに、教職員の指導方法の改善に役立てています。本校の調査結果と分析ができましたので、以下の通りお知らせいたします。

### 【県・全国平均との比較】

いくつかの課題は見られるものの、3教科全てにおいて、県・全国の平均を上回る結果となりました。国語は、県・全国平均を6～7ポイント上回る結果となりました。算数は、県・全国平均を3～5ポイント上回る結果となりました。また、理科は、県・全国平均を4～5ポイント上回る結果となりました。

### 【学力調査からみられる本校児童の特徴】

#### 《国語科》

強みとして、ほとんどの項目で全国平均より高い結果が得られました。漢字3問は、すべて全国平均よりもそれぞれ7～15ポイント程高く、昨年度に引き続き、朝学習などで繰り返し復習していることの成果が出ていることがわかります。また、叙述を基に登場人物の心情や関係性を捉えたり、場面を想像したりする問題については、全国平均よりも5～10ポイントほど高い結果となりました。

弱みとして、「互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる」では、全国平均より6ポイント程低く、「文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える」では全国平均よりも3ポイント程低い結果となり、「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける」で、4ポイント程低い結果となりました。このことから、自分の考えをまとめて表現すること、与えられた条件を理解し指示に従ってまとめて文章を書くことに課題があると考えられます。

#### 《算数科》

強みとして、「示されたプログラムについて、正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直す」問題では、全国平均より11ポイント以上高く、「辺の長さや角の大きさに着目し、ひし形をかくことができるプログラムを選ぶ」問題では、15ポイント以上高い結果が得られました。今回の図形領域の問題は、コンピューターを用いて図形を作図する設定で発問されており、本校が昨年度の研修でICT機器の利用に重点をおいて取り組んだ成果が表れていると考えられます。

弱みとしては、「果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果汁の割合について正しいものを選ぶ」問題で、全国平均よりも3ポイント程低く、「果汁が30%含まれている飲み物に果汁が180mL入っているときの、飲み物の量の求め方と答えを書く」問題で、5ポイント程低い結果となりました。このことから、割合、比例に対する理解が十分でないことがわかりました。

#### 《理科》

強みとして、「一定量の液体の体積を適切にはかり取る器具の名称を書く」問題では、全国平均より25ポイント以上高く、「実験の結果から、問題の解決に必要な情報が取り出しやすく整理された記録を選ぶ」問題では、6ポイント以上全国平均よりも高い結果となりました。このことから、「知識・技能」面での力が十分ついていることがわかります。

弱みとしては、「見いだされた問題を基に、観察の記録が誰のものであるかを選ぶ」問題で、全国平均よ

りも3ポイント程低く、「水溶液の凍り方について、実験の結果を基に、それぞれの水溶液が凍る温度を見だし、問題に対するまとめを選ぶ」問題で、2ポイント程低い結果となりました。このことから、問題に対するまとめを考え、より科学的なものに変容させるなど、自分なりの考えを持つことに課題があると考えられます。

#### 【児童・生徒質問紙からみられる特徴（学習、生活の状況に関して）】

- ・「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」は、どれも全国平均より高く、テレビゲームをしたり、SNSや動画視聴などをしていたりする時間は全国平均より少ない結果となりました。これらの結果からそれぞれのご家庭でしっかりと生活習慣を身につけていただいていることが伺えます。
- ・「学校に行くのは楽しい」と答えている児童は全国平均より16ポイント以上、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」は、「当てはまる」「どちらかという当てはまる」を合わせて9ポイント以上、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」は「当てはまる」「どちらかという当てはまる」を合わせて16ポイント以上、それぞれ高い結果となり、安心して学校生活を送っている児童が多いことがわかります。
- ・「国語の勉強は好き」「算数の勉強は好き」と答えている児童は、どちらも全国平均より低い結果となりました。特に算数は、全国より、13ポイント以上低い結果でした。しかし、「国語（算数）の勉強は大切だと思う」「国語（算数）の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」と答えている児童は全国平均より高く、各教科の結果も全国平均より高いことから、好きだと思っていない学習でも大切であると考え、真面目に学習に取り組んでいることがわかります。
- ・昨年度の調査では、5年生までの使用頻度が低かったICT機器でしたが、昨年度ICTを活用した授業研究に取り組んだこともあり、授業で「ほぼ毎日使用している」は、昨年度より14ポイント以上、「週1回以上使用している」は昨年度より31ポイント以上というように、大きく使用頻度が上がったことを確認できました。

#### 【学校質問紙からみた学校の特徴（県や全国との比較）】

学校質問紙の結果から、本校の特徴として以下のことを確認することができました。

- ・ICTを活用した校務の効率化に積極的に取り組んでいるが、家庭への調査等に関する事務や教職員等会議に関する事務については、全国と比べてまだ軽減が進んでいないことがわかりました。
- ・PDCAサイクルを確立するとともに、学習評価の妥当性や信頼性を高める取り組みを行っていることがわかります。
- ・本校が昨年度「伝え合い、協働して学び合う子どもの育成」を研修主題「言語活動の充実による深い学び」を副主題に授業づくりに取り組んできたことがあらわれているものと考えます。
- ・昨年度の校内研修で、ICTを活用した授業研究に取り組み、教員も授業でのICT機器活用に慣れてきたことがわかりました。また、自宅待機児童や特別な支援を要する児童に対する学習活動の支援にICT機器を活用していることも確認できました。
- ・児童、保護者に対して、積極的に家庭学習を促し、その結果を児童の学習改善に役立てていることがわかりました。今年度の本校の学力調査の結果が、3教科とも全国平均を上回っていることから家庭との連携が学習に良い影響を与えていると考えます。

羽津北小学校では、「自ら学び、共に生きる子どもの育成」を学校教育目標とし、児童の主体性を大切にし、子どもが自ら「学びたい!」「やってみよう!」という思いをもって学習に取り組むことができる授業作りを進めています。このことを大切にしながら、今回明確になった課題（特に国語科で確認できた「論理的思考力」「書く力」等）を中心に課題解決に取り組み、子どもたちに確かな学力をつけていきたいと思っております。

前述の通り、学校と家庭との連携が子どもたちの学習に良い影響を与えることも改めて確認できましたので、今後とも本校の教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。